

民生産業常任委員会研修視察報告書

1. 実施日 令和6年 7月 9日(火)～ 7月10日(水)

2. 参加者 委員長 塚田 義一
 副委員長 堀越 幸広
 委 員 青木 満
 委 員 須田 敏彦
 委 員 都丸 裕史
 委 員 佐藤 久芳
 事務局 久保田 輝己

3. 視察地 ①静岡県御殿場市
 ②静岡県富士宮市

4. 交通機関 貸切バス

5. 視察内容 ゴミの減量化

5. 視察結果 別紙のとおり

◎ 研修視察 1 日目：御殿場市

【実施場所】

御殿場市役所（静岡県御殿場市萩原 438 番地）

【市の概要】

面 積：194.90km²

人 口：83,753 人（令和 6 年 5 月末日現在）

人口密度：429.72 人／km²

御殿場市は霊峰富士の東麓に位置する緑豊かな高原都市で、人口は約 90,000 人あまりを有し、静岡県では中規模な都市として発展を続けている。

東京からは約 100 キロの距離にあり、東京・横浜などの経済圏、通勤圏内になっているほか、市内には東富士演習場をはじめとする自衛隊関連施設が多く存在し、市域の約 3 分の 1 を占めている。

【調査事項】

- ・ゼロカーボンシティ、エコガーデンシティ
- ・ゴミの減量化・リサイクル化について

【まとめ】

○世界遺産である富士山の麓の御殿場市では、優れた環境と景観の形成と産業・経済振興が好循環する「エコガーデンシティ構想」の実現を目指し、エコガーデンシティ推進協議会を組織して積極的な取組を行ってきた。現在はエコガーデンシティ推進協議会を発展的に解消し、改めて SDGs 未来都市推進協議会として取組を継続する中で、重点項目を設定することにより、自治体としてどのようなことが必要なのかが大変わかりやすかった。

○ゴミの減量化・リサイクル化については、環境負荷にも配慮され副生成物やエネルギーを有効活用し循環型社会の形成を目指すべく、廃棄物を燃焼の際に発生する熱エネルギーをサーマルリサイクルとして蒸気タービンの動力として活用することで発電し、その電力を公共施設で活用するなど、循環型社会の形成につながるものである。

◎ 研修視察 2 日目：富士宮市

【実施場所】

富士宮市役所(静岡県富士宮市弓沢 150 番地)

【市の概要】

面 積：309.08 km²

人 口：127,504 人 (令和 6 年 5 月末日現在)

人口密度：327.71 人／km²

富士宮市は富士山の南西麓に位置し、気候は温暖で、富士山の雪解け水を源とする豊富な湧き水や緑あふれる朝霧高原、日本三大急流の一つである富士川、猪之頭湧水群から南流する芝川、天子ヶ岳を源に北から南へと流れる清流稲子川等、豊かな資源を背景に多面的な産業が発展している。

また、恵まれた自然環境に育まれて生産される多様な食資源を活かし、地域の産業振興と市民の健康・幸せづくりを目指す「フードバレー構想」を掲げ、食を中心としたまちづくりを推進している。

【調査事項】

- ・ごみダイエットプロジェクト
- ・「おいくら」を通じたリユースの推進

【まとめ】

○各年の取組の評価検証後に抽出された課題等を次年度に活かしながらゴミの分別を進める中で、雑がみの交換会など市民が参加しやすい取組を重点的に実施するなど、市民、事業者、行政がゴミ削減に向けて共同で幅広く取り組んでいる感があった。

○「おいくら」を通じたリユース事業については、富士宮市がリサイクルを行う民間業者との協定に基づいて不要品の回収を行うもので、リユースの促進に一役買っており、ごみ削減に向けて高い効果が期待できる。